



神経難病ってご存知ですか？

～「ふるえ・ふらつき・力が入らない」
等は要注意です！～



医療法人社団 秀皓会 理事長 船本 全信

暑かった夏も終わりをつげ、朝晩が冷え込んできましたね。新型コロナウイルスに加え、インフルエンザの流行もあり、皆さん体調管理をお願いします。

さて、今回は神経難病についてお話します。神経難病とは、はっきりした原因や治療法がまだ分かっていない病気で、パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症・多発性硬化症・重症筋無力症・進行性核上性麻痺などがあります。

神経難病は、「原因がまだ不明である」と言っても、ある程度まで判明しているものや、根本的に直すことは難しいけれども、日常生活に支障をきたさない程度まで回復する治療が行えるものもあります。また、現在のところ直接的な治療法がないとされる病であっても医療がかかわることで少しでも生活しやすくすることは可能です。

以下に、具体的な病気を上げていきますので、ご参考にしてください。

1. パーキンソン病

脳からの命令が全身にうまく伝わらないことで身体が動かしづらくなる病気がパーキンソン病です。主な症状としては、何もしていないのに手がふるえたり、歩くときに前傾姿勢になって、歩幅が狭く、手の振りが無くなり、顔の表情も硬くなったりします。50～60歳代の方に多く見受けられます。効果的な薬がいろいろ存在しますが、その「使い分け」には専門的な知識が必須です。

2. 筋萎縮性側索硬化症

運動神経細胞（筋肉を動かす命令を伝える神経）が障害を起こすことで発症します。筋力が低下していく病気で、手足やのど、舌の筋肉が衰えていきます。そのため、話すことや食べ物を飲み込むといった行為が困難になっていき、さらに病気が進行していくと全身の筋肉に衰えがみられるようになり、歩行困難や寝たきりになることもあります。50～60歳代の男性に多くの患者がみられることも特徴です。治療法は確立されていないので、進行を遅らせる薬を処方するほか、食事面では飲み込みやすい食べ物を摂るようにします。また、体が硬くならないようにリハビリテーションも行います。このほか、呼吸が弱くなったら人工呼吸器を使用し、食べ物が食べられなくなったら胃ろうをつくります。

3. 脊髄小脳変性症

脳の中にある小脳が障害（小脳と脳幹が変性し、萎縮する）を受けることで、体をうまく動かせなくなる状態を脊髄小脳変性症と言います。原因は明らかではありませんが、遺伝的要因である場合もあります。主な症状としては、歩行時や直立時のふらつき、指先の震え、言葉が滑らかに出てこないで「ろれつ」が回らないといったことがあります。ただし、筋力はいずれも正常です。

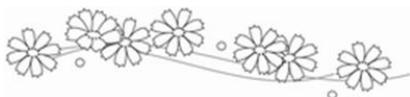
（裏面へ続く→）

症状は遺伝性のものかどうかで違いはみられますが、遺伝子診断を行うことで判断できます。なお、遺伝子が関わっている場合は、若年で比較的発症します。現在のところ確実な治療法は存在しません。症状を改善させるものとして、甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン（TRH）を用いる薬物療法や、運動機能の低下を防ぐべくリハビリテーションなどを行います。

以上、今回は主な神経難病うち3疾患について説明しました。次回は、残り3疾患について説明しようと思いません。

当院では、神経難病に加え認知症の方を近隣の専門病院等と連携して、積極的に治療介入しております。また、治療抵抗性の歩行障害・ふらつきに対し、グルタチオン点滴等行っており好評価を頂いております。お困りの際にはいつでもご相談ください。

～ インフルエンザ予防接種について ～



令和5年10月2日より開始します。

- 西宮市在住で65歳以上の方 ￥1,500.-
- 一般の方 ￥3,000.-



予約制ではありませんが、在庫に限りがあります。

ご希望の方はお早めにお問い合わせください。



◆ふなもとクリニック 〒663-8165 西宮市甲子園浦風町7-13 tel.0798-81-1192

◆ 居宅介護支援事業所
デイサービスセンター

ふくろう

〒663-8165 西宮市甲子園浦風町6-20 1F デイ 3F 居宅
tel.0798-40-9500(居宅) 0798-49-7670(デイ)